

# 静岡県内の絶滅危惧植物とその現状

杉 野 孝 雄

- I. はじめに
- II. レッドデータブックのカテゴリー
- III. レッドリストの静岡県産植物種数
- IV. 静岡県産植物種のカテゴリー区分
- V. ま と め

## I. はじめに

絶滅危惧植物とは、絶滅の恐れのある植物のことである。これらの植物をまとめた本が植物版レッドデータブックである。

日本の植物版レッドデータブックは、1989年に民間団体の日本自然保護協会と世界自然保護基金日本委員会が共同で作成した、『我が国における保護上重要な植物種の現状』が出版されている。

環境庁では、1997年8月28日に、植物版レッドリストを公表した。このリストは環境庁版レッドデータブックとして取り上げられる植物のリストであり、「環境庁版レッドデータブック作成のための調査」を基に作成されている。

調査は1994年から1998年度の5か年継続でおこなわれた、環境庁の自然環境保全基礎調査の一貫として実施されたもので、調査作業の受託者は日本植物分類学会である。

日本植物分類学会では該当植物種のリストを作成し、これを基に各都道府県の専門家に調査を依頼し、現地調査を1994年から1995年度に行い、これをまとめて植物版レッドリストを完成し環境庁が公表したものである。植物版レッドデータブックは近く出版される。

レッドリストには、カテゴリー別に植物種の和名、学名、科名、都道府県別分布が示されている。

筆者はこの調査に当たり、静岡県の主任調査員としてそのとりまとめに従事し、静岡県の絶滅危惧植物の全容とその現状をとらえる

ことができた。また、現地調査は2年間であったが、その後も調査を継続して実施していることから、その知見も加えて静岡県の絶滅危惧植物のカテゴリー区分を検討し、さらに危険をもたらしている要因を分析する。

## II. レッドデータブックのカテゴリー

1997年に公表されたレッドリストでは、レッドデータブックのカテゴリーも発表している。そのカテゴリーは国際自然保護連合(IUCN)が採択した、Red List Categoriesに基本的に従っていて、絶滅確率等の数値基準による、客観的評価基準を採用している。

環境庁は数値基準による客観的評価は、定性的評価より好ましいが、数値的評価が可能なデータが得られない種も多いことから、今までの「定性的要件」と、新たに示された「定量的要件」(数値基準)を併用し、数値基準に基づいて評価することが可能な種については、「定量的要件」を適用する。としている。

環境庁の「レッドデータブックカテゴリー(環境庁、1997)」の区分及び基本概念は次のようである。

### 1. 絶 滅 (EX) Extinct

我が国ではすでに絶滅したと考えられる種。

### 2. 野生絶滅 (EW) Extinct in the Wild

飼育・栽培下でのみ存続している種。

### 3. 絶滅危惧 Threatened

(1) 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

絶滅の危機に瀕している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。

- ・絶滅危惧ⅠA類 (CR) Critically Endangered  
ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。

- ・絶滅危惧ⅠB類 (EN) Endangered  
ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。

#### (2) 絶滅危惧Ⅱ類 (VU) Vulnerable

絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。

#### 4. 準絶滅危惧 (NT) Near Threatened

存続基盤が脆弱な種。現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位のランクに移行する要素を有するもの。

#### 5. 情報不足 (DD) Data Deficient

評価するだけの情報が不足している種。

#### 6. 絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)

##### Threatened Local Population

地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。

### Ⅲ. レッドリストの静岡県産植物種数

環境庁の植物版レッドリストに取り上げられている植物種数は1901種である。その中で静岡県に分布するのは、340種である。そのカテゴリー別植物種数は第1表のようである。

第1表 カテゴリー別植物種数

| カテゴリー        |            | 全 国   |       | 静 岡 県 |     |
|--------------|------------|-------|-------|-------|-----|
|              |            | 種類    | 累計    | 種類    | 累計  |
| 絶 滅 (EX)     |            | 17    | 17    | 0     | 0   |
| 野 性 絶 滅 (EW) |            | 12    | 29    | 0     | 0   |
| 絶滅危惧         | I A 類 (CR) | 471   | 500   | 44    | 44  |
|              | I B 類 (EN) | 410   | 910   | 106   | 150 |
|              | II 類 (VU)  | 518   | 1,428 | 152   | 302 |
|              | 合 計        | 1,399 | —     | 302   | —   |
| 準絶滅危惧 (NT)   |            | 108   | 1,536 | 21    | 323 |
| 情 報 不 足 (DD) |            | 365   | 1,901 | 17    | 340 |

なお、ここで取り扱う植物種は、種、亜種及び変種である。

### Ⅳ. 静岡県産植物種のカテゴリー区分

環境庁のレッドリストのカテゴリー区分は全国的な区分であり、静岡県の区分とは必ずしも一致しない。そこで、環境庁のレッドリストにある静岡県産植物種について、静岡県の現状に合わせた、静岡県独自のカテゴリー区分を新たに試み次に示す。( ) 内は環境庁のレッドリストのカテゴリー区分である。

#### 1. 絶 滅 (EX)

ハナヤスリ科：チャボハナヤスリ (CR)

掛川市に分布。墓地の改修で絶滅。

ホウライシダ科：ヒメウラジロ (VU)

静岡市に分布。城址の改修で絶滅。

ヒメウラボシ科：キレハオオクボシダ (CR)

天城湯が島町・中伊豆町に分布。1955年以降確認されていない。

ハマビシ科：ハマビシ (EN) 清水市に分布。

海岸の開発で絶滅。

クロウメモドキ科：ハマナツメ (EN) 清水市に分布。

海岸の開発で絶滅。

イソマツ科：ハマサジ (VU) 清水市に分布。

海岸の開発で絶滅。

ゴマノハグサ科：マルバノサワトウガラシ

(EN) 浜松市に分布。湿地の開発で絶滅。

ゴマノハグサ科：ミカワシオガマ (EN)

浜松市に分布。湿地の開発で絶滅。

キク科：カワラノギク (EN) 静岡市・沼津市に分布。

河川の開発で絶滅。

キク科：イナベアザミ (EN) 1961年以降確認されていない。

キク科：ミコシギク (EN) 湖西市に分布。

湿地の開発で絶滅。

イバラモ科：ムサシモ (CR) 竜洋町・湖西市に分布。

湿地の開発で絶滅。

カヤツリグサ科：イッスンテンツキ (CR)

浜松市・湖西市に分布。湿地の開発で絶滅。

ラン科：クゲヌマラン (CR) 富士市に分布。

海岸の開発で絶滅。

ラン科：ムカゴトンボ (CR) 浜北市に分布。

湿地の開発で絶滅。

静岡県内で絶滅したと判断される植物種は現在15種ある。絶滅の原因は湿地の開発6種。海岸の開発4種。その他5種である。生育範囲の限定される、水湿生植物、海浜植物に対する開発の影響が大きい。

## 2. 野生絶滅 (EN)

該当植物種なし。

## 3. 絶滅危惧

絶滅危惧植物については静岡県の現状を検討し、絶滅危惧をもたらしている原因を、1994年に決められた、日本植物分類学会の次の区分に合わせて判定し、主要な要因2つを選び記号で示す。

- |          |          |
|----------|----------|
| 11. 森林伐採 | 12. 池沼開発 |
| 13. 河川開発 | 14. 海岸開発 |
| 15. 湿地開発 | 16. 草地開発 |
| 17. 石灰採掘 | 21. ゴルフ場 |
| 22. スキー場 | 23. 土地造成 |
| 24. 道路工事 | 25. ダム建設 |
| 31. 水質汚濁 | 32. 農薬汚染 |
| 41. 園芸採取 | 42. 薬用採取 |
| 51. 踏みつけ | 52. 動物食害 |
| 53. 管理放棄 | 54. 自然遷移 |
| 55. 火山噴火 | 56. 帰化競合 |
| 61. 産地極限 | 71. その他  |
| 99. 不明   |          |

### (1) 絶滅危惧 I A類 (CR)

- ヒカゲノカズラ科：ヒモラン (CR) 11・41  
 オシダ科：スルガイノデ (CR) 41・61,  
 シムライノデ (CR) 13・61  
 メシダ科：ヒメデンダ (CR) 54・61  
 ナデシコ科：カンチャチハコベ (CR) 54・61  
 ウマノスズクサ科：シモダカンアオイ (CR) 41・61  
 ボタン科：ベニバナヤマシャクヤク (EN) 11・41

モウセンゴケ科：ナガバノイシモチソウ (EN) 15・61

アブラナ科：ハナハタザオ (CR) 16・23,  
 キタダケナズナ (CR) 54・61

セリ科：ヤマナシウマノミツバ (EN) 11・61, ヌマゼリ (EN) 15・23

ツツジ科：ムラサキツリガネツツジ (CR) 11・41

リンドウ科：ホソバツルリンドウ (EN) 16・61, ソナレセンブリ (CR) 14・41

シソ科：ムシャリンドウ (EN) 16・54, ミズネコノオ (VU) 15・23, コナミキ (EN) 14・23

タヌキモ科：フサタヌキモ (CR) 15・23, ヒメタヌキモ (VU) 15・23, ヒメミミカキグサ (EN) 15・23

キク科：ヤマタバコ (CR) 16・61, ネコヤマヒゴタイ (VU) 15・23

シバナ科：シバナ (VU) 14・23

ユリ科：アワコバイモ (EN) 11・61, カイコバイモ (CR) 11・61, ウラジロギボウシ (CR) 11・61, ジンヨウユリ (CR) 41・61, スルガジョウロウホトトギス (CR) 25・61

ヒナノシャクジョウ科：タヌキノシヨクダイ (CR) 11・61

イネ科：ヤマオオウシノケグサ (CR) 54・61

サトイモ科：アマギテンナンショウ (CR) 11・61

カヤツリグサ科：ミクリガヤ (EN) 15・23

ラン科：イワチドリ (EN) 41・61, ミスズラン (CR) 11・61, キンセイラン (EN) 41・61, キソエビネ (CR) 11・41, キエビネ (EN) 41・61, サルメンエビネ (EN) 11・41, ホテイラン (CR) 11・41, カンラン (CR) 11・41, アツモリソウ (EN) 16・41, キバナノアモリソウ (CR) 11・61, ナヨテンマ (CR) 11・61, ヒロハツリシュスラン (EN) 11・41, フジチドリ (EN) 11・41, フガクスズムシソウ (EN) 11・41, クモイジガバチ (CR) 11・

- 41, ウチヨウラン (VU) 11・41, ガンゼキラン (CR) 41・61, オオバナオヤマサギソウ (EN) 11・41, ムカデラン (EN) 11・41
- (2) 絶滅危惧 I B 類 (EN)
- ヒカゲノカズラ科: チシマヒカゲノカズラ (EN) 54・61, スギラン (EN) 11・41
- ハナヤスリ科: ミヤマハナワラビ (DD) 54・61
- シシラン科: タキミシダ (EN) 11・41
- ツルキジノオ科: ヒロハアツイタ (EN) 11・41
- オシダ科: センジョウデンダ (EN) 54・61, タカネシダ (EN) 54・61
- メシダ科: コウライイヌワラビ (EN) 23・61
- ウラボシ科: クラガリシダ (EN) 11・61
- ヒメウラボシ科: ヒロハヒメウラボシ (DD) 54・61
- デンジソウ科: デンジソウ (VU) 15・32
- アカウキクサ科: アカウキクサ (VU) 15・32
- ナデシコ科: タカネマンテマ (EN) 54・61
- キンポウゲ科: オオサワトリカブト (EN) 11・61, フクジュソウ (VU) 16・41, ハコネシロカネソウ (VU) 11・61, オキナグサ (VU) 16・41, ヒキノカサ (VU) 15・23, オオイチョウバイカモ (EN) 13・31, タマカラマツ (EN) 11・61
- ウマノスズクサ科: イワタカンアオイ (EN) 23・41, スエヒロアオイ (DD) 23・61
- オトギリソウ科: アゼオトギリ (EN) 15・23
- ケシ科: ツルキケマン (EN) 11・61
- アブラナ科: タチスズシロソウ (VU) 14・23, クモイナズナ (EN) 54・61, シロウマナズナ (EN) 54・61
- マンサク科: トキワマンサク (CR) 54・61
- ベンケイソウ科: マツノハマンネングサ (VU) 11・23
- ユキノシタ科: ウメウツギ (VU) 11・61
- バラ科: ハゴロモグサ (VU) 54・61, キンロバイ (VU) 54・61
- マメ科: イヌハギ (VU) 24・54
- フウロソウ科: アサマフウロ (EN) 16・54
- トウダイグサ科: ノウルシ (VU) 15・23
- ミカン科: タチバナ (VU) 11・54
- ヒメハギ科: ヒナノキンチャク (DD) 16・23
- ミソハギ科: ミズキカシグサ (EN) 12・23
- ヒシ科: ヒメビシ (VU) 12・23
- セリ科: ミシマサイコ (VU) 16・42
- ツツジ科: ハコネコメツツジ (VU) 11・41, ナガボナツハゼ (VU) 15・23
- ヤブコウジ科: オオツルコウジ (EN) 11・61
- サクラソウ科: サワトラノオ (EN) 15・23, サクラソウ (VU) 16・41
- リンドウ科: サンプクリンドウ (EN) 54・61, コヒナリンドウ (VU) 54・61, アカイシリンドウ (EN) 54・61, ヒメセンブリ (DD) 54・61, ムラサキセンブリ (VU) 16・54, シノノメソウ (EN) 11・24
- ミツガシワ科: ガガブタ (VU) 12・23, アサザ (VU) 12・23
- アカネ科: ハナムグラ (EN) 54・61
- ハナシノブ科: ミヤマハナシノブ (VU) 54・61
- ムラサキ科: ムラサキ (EN) 16・41
- シソ科: カイジンドウ (EN) 16・54, ミズトラノオ (VU) 15・23, キタダケオドリコソウ (DD) 11・61
- ナス科: ヤマホウズキ (EN) 11・54
- ゴマノハグサ科: ゴマクサ (EN) 15・23, スズメハコベ (EN) 15・23
- イワタバコ科: シシンラン (EN) 11・41
- タヌキモ科: ミカワタヌキモ (EN) 15・23
- スイカズラ科: スルガヒョウタンボク (EN) 11・61, コゴメヒョウタンボク (EN) 11・61, イワツクバネウツギ (VU) 11・61
- キク科: ウラギク (VU) 14・23, フジバカマ (VU) 13・16, ホソバニガナ (EN)

16・23  
 オモダカ科：マルバオモダカ (VU) 12・54  
 ヒルムシロ科：コバノヒルムシロ (EN) 12・23, リュウノヒゲモ (VU) 12・23, カワツルモ (EN) 12・23  
 イバラモ科：サガミトリゲモ (EN) 12・23, イトトリゲモ (EN) 12・23, トリゲモ (EN) 12・23  
 ホンゴウソウ科：ホンゴウソウ (EN) 11・61, ウエマツソウ (VU) 11・61  
 ユリ科：イズアサツキ (EN) 14・61, ヒロハノアマナ (VU) 16・23, ミカワバイケイソウ (VU) 15・23  
 ヤマノイモ科：イズドコロ (CR) 11・23  
 アヤメ科：ヒメシャガ (NT) 11・41  
 ホシクサ科：クロホシクサ (EN) 15・23  
 イネ科：ミヤマハルガヤ (EN) 54・61, タチイチゴツナギ (EN) 54・61, ミヤマカニツリ (EN) 54・61, リシリカニツリ (EN) 54・61, キタダケカニツリ (CR) 54・61  
 サトイモ科：シコクヒロハテンナンショウ (EN) 11・61  
 ミクリ科：ヒメミクリ (VU) 12・23  
 カヤツリグサ科：キノクニスゲ (VU) 23・61, ハシナガカンスゲ (VU) 11・61, オオクグ (VU) 12・61, タカネナルコ (EN) 54・61, コツブヌマハリイ (VU) 15・23, カガシラ (EN) 15・23, ミカワシンジュガヤ (EN) 15・23  
 ラン科：ナツエビネ (VU) 11・41, ユウシュンラン (VU) 11・61, マヤラン (EN) 54・61, コアツモリソウ (VU) 11・41, ホテイアツモリソウ (EN) 54・61, ハコネラン (EN) 11・61, トラキチラン (EN) 11・61, ダイサギソウ (EN) 11・61, カゲロウラン (VU) 11・61, ヤクシマアカシュスラン (EN) 11・61, ヒメムヨウラン (VU) 11・61, サカネラン (EN) 11・61, ヒナチドリ (VU) 11・41, カモメラ (EN) 11・41, ニョウホウチドリ (EN) 54・61, シロウマチドリ (EN)

54・61, トキソウ (VU) 15・41, カシノキラン (VU) 11・61, イイヌマムカゴ (EN) 11・61, キバナノショウキラン (EN) 11・61

### (3) 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

マツバラン科：マツバラン (VU) 11・41  
 ミズニラ科：ミズニラ (VU) 12・23  
 ハナヤスリ科：ヒメハナワラビ (VU) 54・61  
 オシダ科：イナデンダ (NT) 54・61  
 サンショウモ科：サンショウモ (VU) 15・32  
 アカウキクサ科：オオアカウキクサ (VU) 15・23  
 ヤナギ科：コマイワヤナギ (VU) 11・54  
 ツチトリモチ科：ミヤマツチトリモチ (VU) 11・61  
 タデ科：ヤナギヌカボ (VU) 15・23, ヌカボタデ (VU) 15・23, コギシギシ (VU) 16・23  
 ナデシコ科：オオビランジ (VU) 16・61, シコタンハコベ (VU) 54・61  
 キンポウゲ科：ミスミソウ (NT) 11・54, カザグルマ (VU) 15・23, セツブンソウ (VU) 41・54  
 スイレン科：オニバス (VU) 12・23  
 ウマノスズクサ科：カギガタアオイ (EN) 11・54, アマギカンアオイ (DD) 11・54, オトメアオイ (VU) 11・54  
 ボタン科：ヤマシャクヤク (VU) 11・41  
 モウセンゴケ科：イシモチソウ (VU) 15・54  
 アブラナ科：クモマナズナ (VU) 54・61  
 ユキノシタ科：タコノアシ (VU) 13・23, ヤシャビシャク (VU) 11・41  
 バラ科：ウラジロキンバイ (VU) 54・61, サンショウバラ (VU) 11・54  
 ジンチョウゲ科：チョウセンナニワズ (VU) 11・61  
 グミ科：ハコネグミ (VU) 11・23  
 スミレ科：キスミレ (VU) 16・41

- ミソハギ科：ミズマツバ (VU) 12・23  
セリ科：ホソバハナウド (EN) 16・54  
ツツジ科：アマギツツジ (EN) 11・41, キョウマルシャクナゲ (EN) 11・41, アシタカツツジ (VU) 11・41, ホソバシャクナゲ (VU) 11・41, シブカワツツジ (EN) 11・41  
サクラソウ科：クモイコザクラ (VU) 41・54, コイワザクラ (VU) 41・54, シナノコザクラ (VU) 41・54  
マチン科：ヒメナエ (EN) 16・23  
リンドウ科：オノエリンドウ (DD) 54・61, イヌセンブリ (VU) 15・54  
ミツガシワ科：ヒメシロアサザ (VU) 12・23  
キョウチクトウ科：チョウジソウ (VU) 12・31  
ガガイモ科：クサナギオゴケ (VU) 11・23  
シソ科：マネキグサ (VU) 11・54, キセワタ (VU) 16・23, ヒメハッカ (VU) 15・23, ヤマジソ (VU) 16・23, シマジタムラソウ (VU) 16・54  
ナス科：アオホウズキ (DD) 11・54  
ゴマノハグサ科：イズコゴメグサ (EN) 16・23, オオアブノメ (VU) 15・23, オオヒキヨモギ (VU) 16・54, イヌノフグリ (VU) 16・54  
タヌキモ科：タヌキモ (VU) 12・31, ムラサキミミカキグサ (VU) 15・54  
スイカズラ科：チシマヒョウタンボク (VU) 11・61  
キキョウ科：ツルギキョウ (VU) 11・61, キキョウ (VU) 16・23  
キク科：キタダケヨモギ (VU) 54・61, ユキヨモギ (CR) 14・23, タテヤマギク (VU) 11・23, シブカワシロギク (CR) 11・23, イズカニコウモリ (DD) 11・54, ワタムキアザミ (VU) 11・54, アキノハハコグサ (EN) 16・23, タカサゴソウ (VU) 16・54, カワラニガナ (VU) 13・54, ヒメヒゴタイ (VU) 16・54, コウリンカ (VU) 16・54, タカネコウリ  
ンカ (VU) 54・61  
オモダカ科：アギナシ (NT) 12・54  
トチカガミ科：マルミスブタ (VU) 12・23, スブタ (VU) 12・23  
ヒルムシロ科：イトモ (VU) 13・23  
ミズアオイ科：ミズアオイ (VU) 12・23  
アヤメ科：カキツバタ (VU) 12・54  
ホシクサ科：シラタマホシクサ (VU) 15・23  
イネ科：ミズタカモジ (VU) 15・23, ミギワトダシバ (VU) 13・25, ウンヌケモドキ (VU) 16・23, ウンヌケ (VU) 16・23  
サトイモ科：オドリコテンナンショウ (VU) 11・61, オオミネテンナンショウ (VU) 11・61  
ウキクサ科：ヒンジモ (EN) 13・31  
ミクリ科：ヤマトミクリ (VU) 12・23  
カヤツリグサ科：イトテンツキ (VU) 16・54, スルガスゲ (VU) 11・61, オノエスゲ (VU) 54・61, ヌイオスゲ (VU) 54・61  
ラン科：マメヅタラン (VU) 11・54, ムギラン (VU) 11・54, エビネ (VU) 11・41, ナギラン (VU) 11・41, クマガイソウ (VU) 11・41, タシロラン (VU) 11・61, ハルザキヤツシロラン (VU) 11・61, サギソウ (VU) 15・41, ミズトンボ (VU) 15・41, フウラン (VU) 11・41  
絶滅危惧植物は I A 類52種, I B 類119種, II 類102種, 合計273種である。これらが, 危険な状態に置かれている要因をまとめたのが第2表である。ラン科植物は特に絶滅危惧植物が多いことから, 独立させて示した。  
危険の要因の内, 主なものは人為的な開発である。11～17は広範囲な開発, 21～25は比較的狭い範囲の開発である。  
開発では森林伐採によるもの102種, 19%と最も多く, 湿地開発39種, 7%。草地開発36種, 7%。池沼開発25種, 5%がこれに次いでいる。狭い範囲での開発は, 土地造成が宅地造成などが各地で行われていることか

静岡県内の絶滅危惧植物とその現状

第2表 絶滅危惧植物と危険をもたらす要因

| 危険の要因   | 絶滅危惧ⅠA類 |    |    |    |     | 絶滅危惧ⅠB類 |     |    |    |     | 絶滅危惧Ⅱ類 |     |    |    |     | 合計  |
|---------|---------|----|----|----|-----|---------|-----|----|----|-----|--------|-----|----|----|-----|-----|
|         | シダ      | 双子 | 単子 | ラン | 計   | シダ      | 双子  | 単子 | ラン | 計   | シダ     | 双子  | 単子 | ラン | 計   |     |
| 11 森林伐採 | 1       | 3  | 5  | 14 | 23  | 5       | 16  | 6  | 15 | 42  | 1      | 25  | 3  | 8  | 37  | 102 |
| 12 池沼開発 | —       | —  | —  | —  | 0   | —       | 4   | 9  | —  | 13  | 1      | 5   | 6  | —  | 12  | 25  |
| 13 河川開発 | 1       | —  | —  | —  | 1   | —       | 2   | —  | —  | 2   | —      | 2   | 3  | —  | 5   | 8   |
| 14 海岸開発 | —       | 2  | 1  | —  | 3   | —       | 2   | 1  | —  | 3   | —      | 1   | —  | —  | 1   | 7   |
| 15 湿地開発 | —       | 7  | 1  | —  | 8   | 2       | 9   | 5  | 1  | 17  | 2      | 8   | 2  | 2  | 14  | 39  |
| 16 草地開発 | —       | 4  | —  | 1  | 5   | —       | 11  | 1  | —  | 12  | —      | 16  | 3  | —  | 19  | 36  |
| 17 石灰採掘 | —       | —  | —  | —  | 0   | —       | —   | —  | —  | 0   | —      | —   | —  | —  | 0   | 0   |
| 21 ゴルフ場 | —       | —  | —  | —  | 0   | —       | —   | —  | —  | 0   | —      | —   | —  | —  | 0   | 0   |
| 22 スキー場 | —       | —  | —  | —  | 0   | —       | —   | —  | —  | 0   | —      | —   | —  | —  | 0   | 0   |
| 23 土地造成 | —       | 8  | 2  | —  | 10  | 1       | 20  | 16 | —  | 37  | 2      | 19  | 9  | —  | 30  | 77  |
| 24 道路工事 | —       | —  | —  | —  | 0   | —       | 2   | —  | —  | 2   | —      | —   | —  | —  | 0   | 2   |
| 25 ダム建設 | —       | —  | 1  | —  | 1   | —       | —   | —  | —  | 0   | —      | —   | 1  | —  | 1   | 2   |
| 31 水質汚濁 | —       | —  | —  | —  | 0   | —       | 1   | —  | —  | 1   | —      | 2   | 1  | —  | 3   | 4   |
| 32 農業汚染 | —       | —  | —  | —  | 0   | 2       | —   | —  | —  | 2   | 1      | —   | —  | —  | 1   | 3   |
| 41 園芸採取 | 2       | 4  | 1  | 16 | 23  | 3       | 7   | 1  | 5  | 16  | 1      | 14  | —  | 6  | 21  | 60  |
| 42 薬用採取 | —       | —  | —  | —  | 0   | —       | 1   | —  | —  | 1   | —      | —   | —  | —  | 0   | 1   |
| 51 踏みつけ | —       | —  | —  | —  | 0   | —       | —   | —  | —  | 0   | —      | —   | —  | —  | 0   | 0   |
| 52 動物食害 | —       | —  | —  | —  | 0   | —       | —   | —  | —  | 0   | —      | —   | —  | —  | 0   | 0   |
| 53 管理放棄 | —       | —  | —  | —  | 0   | —       | —   | —  | —  | 0   | —      | —   | —  | —  | 0   | 0   |
| 54 自然遷移 | 1       | 3  | 1  | —  | 5   | 4       | 18  | 7  | 4  | 33  | 2      | 31  | 5  | 2  | 40  | 78  |
| 55 火山噴火 | —       | —  | —  | —  | 0   | —       | —   | —  | —  | 0   | —      | —   | —  | —  | 0   | 0   |
| 56 帰化競合 | —       | —  | —  | —  | 0   | —       | —   | —  | —  | 0   | —      | —   | —  | —  | 0   | 0   |
| 61 産地極限 | 3       | 7  | 8  | 7  | 25  | 7       | 23  | 12 | 15 | 57  | 2      | 11  | 5  | 2  | 20  | 102 |
| 71 その他  | —       | —  | —  | —  | 0   | —       | —   | —  | —  | 0   | —      | —   | —  | —  | 0   | 0   |
| 99 不明   | —       | —  | —  | —  | 0   | —       | —   | —  | —  | 0   | —      | —   | —  | —  | 0   | 0   |
| 合計      | 8       | 38 | 20 | 38 | 104 | 24      | 116 | 58 | 40 | 238 | 12     | 134 | 38 | 20 | 204 | 546 |

〔注〕 シダ：シダ植物 双子：双子葉植物 単子：単子葉植物（ラン科を除く） ラン：ラン植物

ら、77種、14%と多い。ゴルフ場、スキー場などの開発による影響は0になっているが、危険の要因の選択を2つと限定したことに原因があり、3つ以上選ぶようにすると多くの種が関係してくる。

山野草ブームに由来する、山取の危険も増大していて60種、11%ある。特に、ラン科植物はその影響を強く受けており、レッドリストのラン科植物27種、28%にその影響があり、アツモリソウ、ウチョウラン、カンランなどは静岡県内各地に自生していたが、絶滅寸前の状態である。

水質汚濁、農業汚染は水湿生植物に影響を与え、デンジソウ、アカウキクサなど静岡県内に広く分布していた植物も現在は絶滅に近い状態である。

水湿地や草地の植物には、水湿地から草地、

草地から森林への自然遷移による危険の増大している種が78種、14%ある。この表には出てこないが、これには管理放棄による湿地、草地、森林の荒廃も内在している。

産地が極限しているため危険にさらされている種も多く、102種、19%ある。特に、高山植物は生育地が限定されていて、さらに、厳しい環境で生活していることから、わずかな環境の変化が生育に危険な状態を与えている。

#### 4. 準絶滅危惧（NT）

カバノキ科：サクラバハノキ（NT）

オトギリソウ科：ハコネオトギリ（NT）

アブラナ科：コイヌガラシ（NT）

ベンケイソウ科：ツメレンゲ（NT）

ユキノシタ科：キバナハナネコノメ（NT）、

ムカゴネコノメ（NT）

ジンチョウゲ科：サクラガンピ (VU)  
 アカバナ科：ウスゲチヨウジタデ (VU)  
 アリノトウグサ科：タチモ (NT)  
 ガガイモ科：スズサイコ (VU)  
 シソ科：タチキランソウ (NT), ミゾコウ  
 ジュ (NT)  
 ゴマノハグサ科：カワジシャ (NT)  
 キク科：イズハハコ (VU)  
 アマモ科：コアマモ (DD)  
 イグサ科：クモマスズメノヒエ (NT)  
 イネ科：ヒメコヌカグサ (NT)  
 ミクリ科：ミクリ (NT), ナガエミクリ  
 (NT)  
 ラン科：シラン (NT), キンラン (VU),  
 クロヤツシロラン (EN)

以上の植物種は、存続基盤は弱いが静岡県各地に自生し、現在の時点では絶滅の危険度の低い植物である。

#### 5. 情報不足 (DD)

マツ科：ヒメバラモミ (EN)  
 イラクサ科：トキホコリ (VU)  
 スイレン科：ヒメコウホネ (VU)  
 ウマノスズクサ科：テンリュウカンアオイ  
 (CR), ズソウカンアオイ (VU), タマ  
 ノカンアオイ (VU)  
 ベンケイソウ科：イワレンゲ (EN)  
 ミソハギ科：ミズスギナ (EN)  
 ゴマノハグサ科：センリゴマ (CR)  
 キク科：ドロニガナ (DD)  
 トチカガミ科：ウミヒルモ (DD)  
 アマモ科：タチアマモ (DD)  
 ユリ科：ステゴビル (VU), チャボシライ  
 トソウ (EN), ヒメアマナ (EN)  
 イグサ科：エゾイトイ (CR), タカネイ (NT)  
 イネ科：タカネタチイチゴツナギ (DD),  
 キタダケイチゴツナギ (DD)  
 ミクリ科：タマミクリ (VU)  
 カヤツリグサ科：タカネヤガミスゲ (NT),  
 カラフトイワスゲ (CR), ジングウスゲ  
 (VU), ヤリテンツキ (VU), ノハラテ  
 ンツキ (VU), トネテンツキ (VU), ヒ

ゲハリスゲ (DD)

ラン科：ヒナラン (EN), ムカゴサイシン  
 (CR), ナゴラン (CR)

以上の植物種は、産地が極限されていて情報不足でランクの判定ができないもの、文献に記録はあるが静岡県内の産地が不明、または誤認の可能性のあるもの、帰化種と思われるものなど、検討が必要な植物種である。

#### V. ま と め

環境庁のレッドリストに取り上げられている植物種について、静岡県の実状に合わせたカテゴリー区分をして、絶滅危惧植物については、その危険をもたらしている要因を分析した。静岡県産植物種のカテゴリー区分をまとめると第3表のようである。単子葉植物はラン科植物を除いた種数である。

静岡県内の植物種数は、静岡県植物誌 (1984) に依ると、雑種、品種、帰化種を除くとシダ植物358種、種子植物2,546種、合計2,904種である。

レッドリストに取り上げられている植物種数はシダ植物7.0%, 種子植物12.4%, 合計11.7%にすぎない。ラン科は大きな科であり、絶滅危惧植物が多いことから、別に取り上げたが、57種は静岡県産ラン科全127種の44.9%に当たり、他の科に比べて絶滅危惧植物の割合が著しく高い。花が美しいことなどから園芸採取されることが原因である。その他絶滅危惧植物の多い科は、キク科22種、カヤツリグサ科20種、イネ科13種、シソ科13種、

第3表 静岡県産植物種のカテゴリー区分

| カテゴリー      | シダ植物       | 裸子植物 | 種子植物 |     |     | 合計  |
|------------|------------|------|------|-----|-----|-----|
|            |            |      | 双子葉  | 単子葉 | ラン科 |     |
| 絶 滅 (EX)   | 3          | 0    | 8    | 2   | 2   | 15  |
| 野性絶滅 (EW)  | 0          | 0    | 0    | 0   | 0   | 0   |
| 絶滅危惧       | I A 類 (CR) | 4    | 0    | 19  | 10  | 52  |
|            | I B 類 (EN) | 12   | 0    | 58  | 29  | 119 |
|            | II 類 (VU)  | 6    | 0    | 67  | 19  | 102 |
|            | 合 計        | 22   | 0    | 144 | 58  | 273 |
| 準絶滅危惧 (NT) | 0          | 0    | 14   | 5   | 3   | 22  |
| 情報不足 (DD)  | 0          | 1    | 9    | 17  | 3   | 30  |
| 合 計        | 25         | 1    | 175  | 82  | 57  | 340 |



ユリ科11種, キンボウゲ科10種, リンドウ科10種, ゴマノハグサ科10種などがある。

カテゴリー区分を環境庁のカテゴリー区分と比較すると, 変動がある。このことは, 全国的なレベルでのカテゴリー区分は, そのまま静岡県には当てはまらないことを示している。全般にカテゴリーは上位にランクされる種が多く, 静岡県内では絶滅したと判断される種も15種ある。

静岡県は海岸から日本最高峰の富士山, 3,000m級の高山の連なる南アルプスまで高度差があり, 多様な環境にさまざまな植物が分布している。また, 北限種, 東限種や高山には南限種も多い。レッドリストにない植物でも, 例えば, シダ植物のシロヤマゼンマイ, スジヒトツバのように, 西南日本では普通種

であるが, 静岡県がこの植物の分布の東北限に当たり, 静岡県内には1ヶ所しか産地がなく, 分布の重要性も高く絶滅危惧IA類にランクされ植物もある。このように, 静岡県独自に加える必要のある絶滅危惧植物は約300種ある。これらの植物を加えた、静岡県版植物レッドデータブックの作成が必要である。静岡県自然保護室では, 静岡県版レッドデータブックの作成に着手しており, 2002年には完成する予定であり, 筆者もその企画に植物部会長として参画している。

この調査をまとめるに当たり, 芦川幹弘, 笹本岩男, 内藤宇佐彦, 中山芳明, 細倉哲穂, 宮崎一夫, 山下勇, 山本利興, 湯浅保雄, 渡辺健二氏など多くの方々に, 調査に協力いただいたことを感謝します。

#### 〈参考文献〉

杉本順一『静岡県植物誌』第一法規出版, 1984年, 1～814ページ。

日本自然保護協会他『我が国における保護上重要な植物種の現状』日本自然保護協会他, 1989年, 1～320ページ。

杉野孝雄「静岡県における保護上重要な植物種の現状と危険をもたらす要因」『遠州の自然』(遠州自然研究会)第15号, 1992年, 17～28ページ。

杉野孝雄「静岡県の保護上重要なシダ植物とその現状」『研究紀要』(静岡学園経営研究所)第4号, 1993年, 13～34ページ。

環境庁自然保護局『自然環境保全基礎調査, 生物多様性調査, 種の多様性調査要綱』環境庁, 1994年, 1～20ページ。

環境庁自然保護局『植物版レッドリストの作成について』環境庁, 1997年, 1～80ページ。